

まえがき

向上訓練の発展、「B型」訓練の導入に具体的に現れているように、今日職業訓練にとって、企業現場にどのような訓練ニーズが存在するのかを知ることは、欠くことのできない重要な要件となっています。この『企業面接情報集』には、訓研センター及び技能開発センターの職員が訪問した企業の実態や意見などが、できるだけ応対者の発言そのままの形で収録されています。ここに収録されている企業側発言そのものが、企業の従業員能力問題の実態を知る上で、したがってまた、訓練ニーズを知る上で重要な情報資料であるし、さらにここに収録されているような各地の企業の事情を情報として持っていることは、新たに企業訪問し、情報を得ようとするときに、話題を引き出すのに大変役立ちます。

訓研センターでは、数年前から、各地の技能開発センターとの共同研究の形で、向上訓練コース開発など、実践的成果を生み出す研究開発を行ってきました。この資料集は、その中で繰り返し行った企業面接調査によって集めた、企業人の発言を分類整理して収録したものです。それぞれ訓研センターの報告資料その他の中で活用されているものですが、それを1冊にまとめて、『企業面接情報集』として公表することは、現在の公共職業訓練施設や雇用促進センターの要望に合致したことであろうと考えられます。

このようにしてできた企業情報集ですから、いくつかの特徴、あるいは限界もあります。まず第1に、その内容は企業サイドからみた従業員教育訓練問題に集中していることです。その他の一般的な従業員問題や企業経営の問題などに関しては殆ど触れられていないし、受講者の立場での労働者個人の発言も今回は収録していません。第2に、訓研センターと技能開発センターとの共同研究の中での企業面接ですから、その関心はおのずと、企業内の教育訓練の問題点や限界を探り、公共職業訓練の果たすべき事柄を考えようとする点にあり、情報の内容もそういった観点から整理されています。第3に、地域的には関東甲信越地方の中小企業の情報だということです。全国各地の地域的な特性というものもあろうかと思いますが、ここにはそれほど特殊でない、広く一般性がある、全国的にも参考になると思われるような発言を収録したつもりです。訓研センターとしても今後もっと遠隔地の訓練現場とも共同研究を追求し、企業情報としても充実したものに補充していきたいと考えています。

この『企業面接情報集』が多くの関係者の方々の参考になり、全国的に公共職業訓練と産業界との情報網が太く育っていくことの一助となることを期待します。

昭和 63 年 11 月

凡 例

引用に続く()内は、企業名〔イニシャル〕と出典です。

出典の略記は次の通りです。

資 —— 『調査研究資料』（数字はその号数を表す）

報 —— 『調査研究報告書』（同上）

論 —— 他所に発表された論文

資50 —— 『小零細企業における従業員教育の意味について
～小零細企業が公共向上訓練に従業員を出せない理由～』

資53 —— 『公共向上訓練に対する中小企業からの期待に関する一考察』

資79 —— 『従業員類型別教育訓練コース及び教材開発
～中年期のための向上訓練コース開発～』

資86 —— 『中年期のための向上訓練コース開発
～旋盤加工技能クリニック～』

報45 —— 『ME化時代の現場ニーズに応える向上訓練コース開発
「NC機作業者のための加工技術コース」』

論 1 —— 「在職労働者の職業能力形成をめぐる一課題について」
(一橋論叢第99巻第6号)

訓研資料シリーズ No.1

企業面接情報集 I (昭和59～62年)

発行 1988年11月

発行者 職業訓練研究センター

所長 多賀谷 敏夫

〒229 神奈川県相模原市相原1960

電話 0427-61-9911(代)

印刷所 (株) 芳文社